

# 稚内市観光振興計画の概要

## － 一人ひとりの観光客を迎え入れる稚内観光地づくり －

### I. 本計画の趣旨について

稚内市は、我が国本土の最北端に位置していることや、周辺には豊かな自然と魅力ある景観を有する利尻礼文サロベツ国立公園があるなど、観光地としての知名度も高く、多くの観光客が訪れています。

しかし、その観光客数も年々減少してきており、稚内市の経済や産業への影響も大きなものとなってきています。このため、改めて稚内市の観光を見直し、本物の観光地として再生することが必要となっています。

本観光振興計画は、このような考え方から、平成 22 年を「稚内観光再生の元年」と位置づけ、市民と行政が一体となり、新しい時代へ、新たな感覚をもって観光振興を図っていくことを目的として策定しました。

### II. 稚内観光振興計画の目指すところ

我が国の観光を取り巻く環境の変化は、人々の観光行動への変化をもたらしており、旅行形態も団体型から個人型へとその姿を変え、旅行者のニーズも以前と大きく変わってきています。稚内を訪れる観光客も団体観光客が減少し、リュックサックを背負った個人客が目につくようになってきました。

稚内のこれからの観光は、こうした変化に対応するための「受け皿」づくりが必要であり、団体観光客は勿論のこと、個人観光客が稚内に満足し、稚内に感動を覚えて帰っていただけるような観光地づくりを目指すことが必要です。

稚内には、稚内にしかない「稚内の自然」と「稚内の魅力」が沢山あります。これからは、それらの資源をさらに活かすことで「稚内らしさ」を最大限に発揮し、「稚内が今回の観光の目的地です。」と言われるような「観光地」を目指していかなければなりません。

そのためには、①「観光地としての受け入れ基盤の整備」と、②「最北の稚内観光をPRするための観光誘致宣伝体制の確立」が必要であり、この2本の柱を中心として下記に示すような観光振興を図っていきます。

#### < 稚内観光振興計画の目指すところ >

- 一、「日本最北端」は稚内にしかない「日本唯一」のものであり、最北の自然と景観、そして、風土を活かした魅力ある観光地づくりを目指す。
- 一、団体観光客の誘致を継続的に実施するとともに、今、増えている「個人観光客」に対応できる受入体制の整備を進め、観光客の増加を図る。
- 一、稚内市民が一つになり、おもてなしの心をもって、一人ひとりの観光客を温かく迎え入れる基盤づくりを進める。
- 一、稚内市は、近隣市町村と連携を図ることで広域観光を推進し、そのリーダーとしての役割を努め、宗谷地域の観光振興を図る。
- 一、「日本最北端・稚内」を日本中に、さらには世界へ広めることで「訪れてみたい稚内」という「あこがれの地」のイメージ創出に努める。

### III. 稚内観光振興の考え方

#### ～「稚内観光再生の元年」～

これまで稚内観光にとって団体旅行客は重要な役割を担ってきました。しかし、最近では、全国的にも全道的にも個人旅行客の割合が増えてきています。このため、今までの団体観光客を重視する視点から、個人客に目を向けた観光に視点を変えて行かなければなりません。個人客が満足し、感動を覚えることのできる「観光地」になることが、団体客にもよるこんでいただける観光地になることです。これからの稚内は、観光地としての受け皿を整備し、新しい考え方に基づいた、観光地づくりを図っていくことが必要です。

「稚内観光再生の元年」とした稚内観光振興の考え方を一言で表すと、「一人ひとりの観光客を迎え入れる稚内観光地づくり」ということになります。

これは、市民と行政が一体となって、稚内を訪れる観光客を温かく迎え入れ、団体観光客だけでなく、個人観光客を含めたすべての観光客が稚内を十分に堪能できる観光地をつくっていくことです。



西海岸から眺める利尻富士

以下に、稚内の観光振興を図っていく具体的な方向性を、次の3つにまとめました。

- <方向1>：行きたいと思う観光地としてのイメージをつくる
- <方向2>：訪れる人々に満喫してもらう観光行動の場をつくる
- <方向3>：稚内観光を育てていくための推進体制を確立する

### 1. 一人ひとりが行ってみたいと思う観光地へ

稚内に観光客の方々が来てもらうためには、「稚内に行ってみよう」と思ってもらうことが必要です。このためには、稚内に対するイメージの定着を図っていくことが必要です。すでに稚内に対しては「最北端」というイメージが定着していますが、ともすれば、寒い、寂しいといったマイナスイメージに繋がっていることも事実です。このため、ポスターやパンフレットなどを通じて伝えるイメージとして「最北の自然と歴史」を前面に押し出し、最北にしかない自然や歴史を知りたいと思ってもらえるような工夫を図ることが必要です。

#### <方向1> 行きたいと思う観光地としてのイメージをつくる

「最北の自然と歴史・稚内」という新たなイメージ・コンセプトを掲げて、ホームページ、パンフレット等の見直しを図っていくほか、台湾、香港等アジア向けには、「極東最北端の自然と文化」などのイメージとするなど、ターゲットごとのパンフレット等の見直しを図っていきます。

また、稚内これから観光をしようとする国内外の人に対して「最北の自然と歴史」のイメージ定着に向け、情報内容の見直しと充実を図り、テレビ、ラジオ、新聞等のマスメディアを活用したPR・広報活動を積極的に行います。

### 2. 訪れてよかった観光地 — 受入れ態勢を整える —

稚内が観光地として、また、稚内の基幹産業のひとつとして定着していくためには、稚内を訪れた観光客に「訪れてよかった」と思ってもらうことが必要です。こうした観光客を増やしていくことが、今後の稚内を観光地として育てていくこととなります。

このためには、稚内を訪れた観光客が知りたいがっている情報を知りたい時に提供できること、観光客が稚内に対して抱いている期待に応えた自然や景観、歴史・文化、食等を提供できることが必要です。

情報に関しては、旅行前に知りたい情報と稚内に来たら知りたい情報の2種類があります。旅行前に知りたい情報は、その内容の伝え方によっては、他の観光地の方を選択されることもあるので、最北の稚内にしかない、「見てみたい自然や景観」、「知りたい歴史」、「食べてみたい特産物」といった情報を的確に伝えることが必要です。稚内に来たら知りたい情報は、行きたいと思っている観光ポイントや宿泊施設、飲食店等に迷わずに行けることや、迷った時に、すぐに調べる手段が用意されていること、さらには、今行われているイベントや、今居る場所から近い食事のできる場所などが知りたい時にすぐに調べる手段が用意されていることが必要です。

稚内を訪れる観光客の多くが期待しているのは、最北独自の自然であり、景観であり、歴史・文化、さらには、独自の食です。このため、稚内が有する多くの自然や景観の保全に努めることはもとより、稚内の歴史・文化に触れることのできる場の創出や、本物の食を楽しめるメニューや食の場を提供することが必要です。

また、「稚内に行ってみよう」と思ったときに気になるのが、稚内までの時間と距離です。「遠い」という感覚を「移動が楽しみ」という感覚に切り替えてもらわなければならない、そのためには、移動にメリハリをつけるための立ち寄りポイントを築くことで「旅のリズム」を創出し、稚内までの移動を楽しめるための工夫が必要になるため、周辺地域を含めた広域での取り組みが大切です。



歴史的建造物：旧秋田木材



【2015年1月】全道犬ぞり稚内大会



北海道遺産：宗谷丘陵周氷河地形

#### <方向2> 訪れる人々に満喫してもらう観光行動の場をつくる

稚内の自然や歴史を紹介できる博物館的機能と、観光・地域総合情報提供の場として「最北の自然と歴史歩み館（仮称）」を提案しており、ここでは、表面的な観光情報だけではなく、市民も知りたい稚内の自然、景観、歴史・文化等を学術的に紹介する場所であることや、知られていない稚内の観光資源の紹介、各種イベントの当日案内、その参加手続き、さらには行きたいところへのアクセスの紹介や、より多くの観光客に、より多くの観光ポイントに立ち寄ってもらうための観光モデルコースを設定するなど、稚内を訪れる観光客に稚内を堪能できるための観光資源情報の提供と整備を図ります。

また、稚内を訪れた観光客が、知りたい情報を各観光ポイントで簡単に収集できるような観光Wi-Fi（ワイファイ：無線

LANによる観光・地域情報の提供)の整備を図るほか、提供情報内容の見直しと充実を図ります。

### 世界共通規格で観光情報提供



無線LAN、Wi-Fi（ワイファイ）とは、無線LANとは、無線通信を利用してデータや情報を送受信する方法のことをいいます。近年では一般家庭でもいわゆるLANコードを用いた有線LANよりも無線LANの方が普及してきています。Wi-Fi（ワイファイ）とは、この無線LAN業界が構築した規格のことをいいます。したがって、概ね無線LANとWi-Fi（ワイファイ）は、ほぼ同義語のように使われています。

さらに、観光客からの改善の要望が多い観光案内や、看板、パンフレット等の見直し、改善を図っていきます。

このほか、稚内までの移動時間を楽しめるように周辺地域と連携して魅力向上を図っていくことや、観光客に対するきめ細かなサービスの提供を図るための施策を実施していきます。

### 3. 育てていく観光地

今後の稚内観光を振興していくためには、現在の観光関連組織体制の見直しと、推進体制の構築ならびに機能性の充実の他、今まで以上の民間同士の連携・協力体制の強化が必要であり（本計画では、この連携体制のことを「わか連」と呼んでいます）、それら運営の他に、さらに情報集約発信基盤を備えた中心組織として「観光振興センター」の構築を目指します。

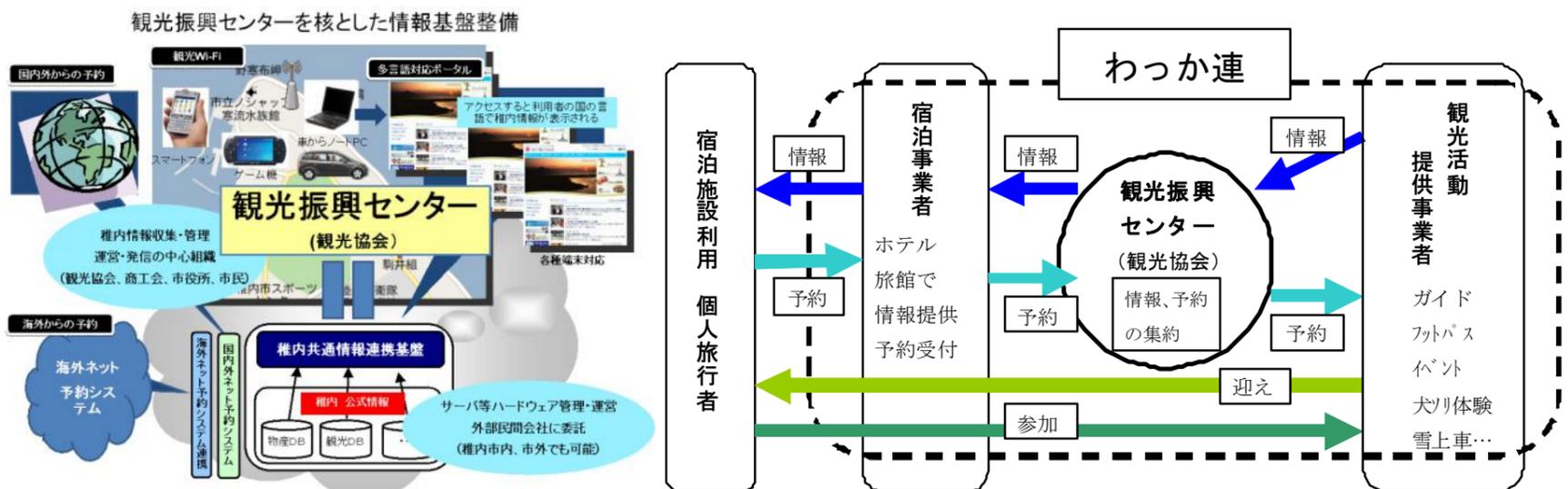
「わか連」は、宿泊事業者が、旅行者に対し市内イベント情報やパンフレット情報を提供し、宿泊者がイベントなどに参加するための手続きの中継を行ったり、現地までの送迎や、活動しやすい環境をつくってあげるなど、旅行者に対するサービスの提供を観光振興センターとの連携で行うネットワーク機能のことを言います。

また、「観光振興センター」は、それらの活動を行っていくための中心組織であり、既存情報の見直しやリアルタイム情報の提供および、観光客が十分に稚内観光を堪能できるための各種サービスメニューやイベント企画の立案など、今まで以上に多くの観光中枢の役割を担って行かなければなりません。

そのような体制を築き上げ、これからの稚内を観光地として育てていくためには、観光関係者はじめ地域が一体になった取り組みが必要であり、そのためには、市民の皆様の十分なお理解とご協力をいただきながら、観光振興を推進して行くことが大切になります。

### <方向3> 稚内観光を育てていくための推進体制を確立する

今後の稚内の観光振興の中心的役割を担う組織としての観光振興センターや、行政、民間の新たな連携・協力体制（わか連）のあり方について、稚内観光協会の機能強化を含め、行政、既存関連団体、関連事業者等による検討を進めていきます。このほか、広域連携体制の確立や、空路、道路、JR、フェリー等の交通基盤の整備に努め、稚内を訪れやすい環境づくりを進めていきます。



## VI. 観光振興計画の体系

本計画の施策を体系的に示したものが下図です。本計画は、第4次稚内市総合計画に基づき、稚内観光の再出発を図るためのものであり、①「観光地としての基盤整備（ハード事業・ソフト事業）」と②「誘致宣伝事業」の大きな2つの「幹」を設けました。

幹がしっかり確立されなければ、いくら枝葉に力を入れても、よい観光地にはなれません。

そのためには、根となる部分をしっかり構築することが大切であり、それがしっかり根付くことで枝葉も立派に成長します。

その基盤を構築し、各種のハード事業とソフト事業を効果的に整備することで、観光客の方々が、稚内を訪れて稚内を十分に満足し堪能できるような受け皿ができ、稚内が魅力あるすばらしい観光地になると考えています。

